

# 平成 17 年度 水産海洋技術センター研究発表会



平成 17 年度水産海洋技術センター研究発表会が平成 18 年 2 月 7 日に鯉城会館で開催されました。水産海洋技術センターになって初めての発表会で、ほぼ会場いっぱいの方の 123 名の方に出席いただき、活発な議論が行われました。発表した研究課題は次のとおりです。

## ○藻場造成に向けたアマモ実生苗の生産（水圏環境部 相田 聡）

平成 16 年度から開始した、横断研究プロジェクトで実施している実生苗を用いたアマモ造成方法について中間報告を行った。苗の生育には有機物や窒素含有量が多い砂泥質の底土が適していること、また、生分解性素材シートに播種して苗を育成すると、現場海面に移植した後の苗の流失を防除する効果があることを明らかにした。

## ○太田川におけるアユ仔魚の流下～高瀬堰の開放とその効果～（水圏環境部 工藤孝也）

太田川では毎年 1～2.5 億尾のアユ仔魚が流下していると推定した。また、アユの流下の阻害要因の一つと推定される高瀬堰について、放流ゲートを切り替えることにより、流下の障害を緩和することができるかと推察した。（3～4 ページに関連記事）

## ○一粒かき生産技術の開発～新ブランドかきを目指して～（かき研究部 田村義信）

「一粒かき」の生産技術を検討し、採苗基質としては生分解性シートが最適であることを明らかにした。また、剥離後の海面育成では、筏に設置したポリ樽を利用した

ダウンウェル方式（海水を上から掛け流し）が最も成績が良かった。

## ○かき養殖における種苗管理（かき研究部 平田 靖）

連続観測装置を用いて、3カ所のかき種苗抑制場の水温、クロロフィル量など環境の特徴と稚貝の成長を調べた。その結果から稚貝の成長・生残モデルを開発し、最適な種苗管理を可能にした。（1～2 ページに関連記事）

## ○ヒラメ表皮増生症の防除対策（栽培養殖部 飯田悦左）

原因ウイルスの理化学的性状を明らかにし、特に飼育水の紫外線処理による水平感染防止対策の有効性を示した。また、高酸素付加及び低塩分飼育によってへい死を軽減できることを明らかにした。（6 ページに関連記事）



発表会における質疑応答